名誉会員追悼

故　名誉会員　吉﨑鴻造　君

社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、元東洋鋼鈑（株）社長、工学博士吉﨑鴻造君は、平成19年1月9日、ご逝去されました。享年93歳。ご逝去の報に接し謹んで哀悼の辞を申し上げます。

氏は、昭和13年九州帝国大学工学部冶金学科卒業、日本特殊鋼株式会社入社、同年海軍技術士官に任官、15年日本特殊鋼株式会社に復帰、18年、再度召集され終戦により退官。昭和21年4月東洋鋼鈑株式会社入社、取締役、常務取締役、専務取締役、取締役副社長を経て、昭和54年代表取締役社長、昭和60年代表取締役会長に就任した後、同社相談役を務められました。

氏は、東洋鋼鈑に入社以来、ブリキ製造技術の確立向上、表面処理鋼板設備の国産化、表面処理鋼板関する新技術、新製品の開発工業化および後進の指導に努力を傾注し、業界の発展に貢献されました。食缶の原料である優良なブリキの生産にはプルオーバー法による熱延鋼板ではなくストリップ圧延による冷延薄板を原板として使用することが不可欠でありますが、終戦当時、冷延薄板を生産できる冷延設備は国内に2ヶ所しかなく、また需要に対しての供給量は限られておりました。氏は東洋鋼鈑にある冷間圧延機の能力をフルに発揮させ原板の安定供給を図ると同時に昭和28年には戦後の日本としては初めての4段冷間圧延機を導入しブリキ原板の完全冷延化を達成しました。昭和30年、我国初の電気すずめっき装置を設置、32年HNXガス設備を国産化のうえ設置、34年5基連続冷間圧延機を設置、昭和36年には冷延ストリップの連続焼鈍装置を設置し、優良な原板によるブリキの量産に成功しました。また表面処理鋼板設備の初の国産化にも力を注ぎ、大手メーカーと協力し昭和28年、走間剪断装置、昭和39年、ティンフリー・スチール装置、昭和43年、電気すずめっき装置をそれぞれ国産第1号として建設しました。以後大手鉄鋼メーカーの走間剪断装置、ティンフリー・スチール装置、電気すずめっき装置は全て国産メーカーによるもので、わが国の表面処理鋼板設備の建設に関する技術の向上発展に資すると共に国産化への道を拓いた功績は大きなものです。

また、氏は日中関係の発展にも大きな功績を残されました。戦後日本と中国との間の国交が無い時代、昭和三十五年には産業界代表の初めての訪中、いわゆる「LT貿易」五ヵ年協定締結時には鉄鋼業代表として日本と中国との鉄鋼輸出入の基礎を形成した功績は高く評価されているところであります。

以上の業績により、本会から昭和27年と45年に香村賞を、50年には製鉄功労賞を受賞され、本会の理事、副会長を歴任し昭和57年には名誉会員に推挙されました。また、昭和39年には大河内記念技術賞、昭和47年には藍綬褒章、昭和62年には勲二等瑞宝章を授与されています。

氏が鉄鋼科学技術と本会の発展に尽くされた多大な業績を偲び、会員一同、心から哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成19年2月

日本鉄鋼協会　会長　浅井　滋生